



なんだこれは! 岡本太郎展

2026 3/20(金) ~ 5/6(水)

おかもとたろう
岡本太郎(1911年~1996年)は、絵画・彫刻・陶芸・書・写真など多彩な表現領域で活躍し、また社会学・考古学・民族学・哲学などにも深い関心を寄せた 20 世紀日本を代表する芸術家です。没後 30 年を迎えた今もなお、その作品と力強い言葉によって、私たちに「自分を生きる」勇気と創造の指針を与え続けています。本展では、岡本太郎が世界を「あるき」「みる」「きく」ことで受けた感覚や思想の「インプット」を軸に、その多面的な創造の源泉を探ります。パリ留学での知的探求、二科会での葛藤、縄文や南方文化との出会いなどを通して形成した独自の哲学にも触れていただけます。黒田清輝・東郷青児・海老原喜之助ら鹿児島ゆかりの芸術家たちが歩んだ「フランスへの道」も見つめ直し、岡本太郎と鹿児島との文化的共鳴を探る展示も見どころです。

2025 年夏に映画『大長編 タローマン 万博大爆発』が全国で公開

2022 ~ 23 年にかけて NHK E テレで『TAROMAN 岡本太郎式特撮活劇』が放送され、幅広い世代に「岡本太郎」の存在があらためて認知されました。昨年夏には全国で映画『大長編 タローマン 万博大爆発』が公開され大きな反響を呼んでいます。1970 年の代表作《太陽の塔》が誕生してから半世紀を超えた今、その創造のエネルギーと思想が新たな世代に再評価され、再び強く注目されている岡本太郎。鹿児島の地で、太郎の大胆な表現や精神をご体感ください。

2026 年 春号
No.36



鹿児島市立美術館 | KAGOSHIMA CITY MUSEUM OF ART

発行 鹿児島市立美術館

〒892-0853

鹿児島市城山町 4 番 36 号

TEL(099)224-3400



春の所蔵品展 (西洋美術+郷土作家+特集コーナー)

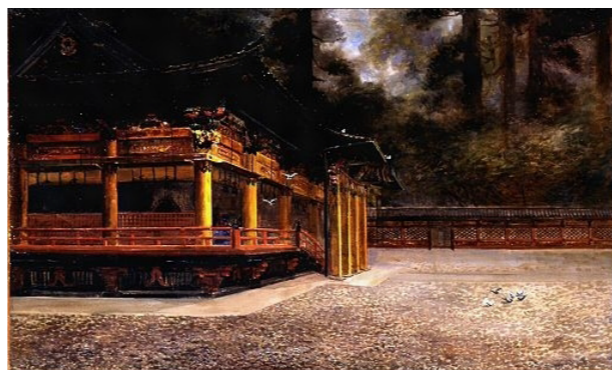
ミニ特集: 学芸員の「押し」コレクション

当館のコレクションを紹介する所蔵品展では、黒田清輝、藤島武二、和田英作をはじめとする鹿児島ゆかりの作家の作品、そして印象派からポップアート以降まで 19 ~ 20 世紀の美術の流れをたどる展示を行っています。本展は、照明設備の LED 化改修工事後初めてとなる所蔵品展です。演色性の高い照明を採用し、作品の美しさが引き立つ光のもとでご鑑賞いただけるようになりました。あわせて、展示レイアウトも一部をリニューアルしました。西洋美術コレクションの展示には、関係する郷土作家の作品を織り交ぜることで、各時代の美術の潮流との関連や影響をより分かりやすく紹介しています。新しい照明とともに展示の変化もお楽しみください。

また、特集として『学芸員の「押し」コレクション』を開催します。当館には館長、副館長以下、6 名の学芸員が在籍しています。隠れた名品、思い出の逸品など、私たちそれぞれの視点で選んだイチオシの作品を、愛にあふれた「押し」コメントとともに展示します。新しい季節の始まり、所蔵品展が様々な作品との出会いの場になりましたら幸いです。ぜひ、みなさまの「押し」も見つけてみてください。



木村探元《普賢菩薩之図》
制作年不詳



曾山幸彦《上野東照宮》
1890 年頃



新納忠之介《西王母》
1950 年

無料開放日のお知らせ

毎月第 3 日曜日は、小・中学生は無料開放日です。所蔵作品展 + 小企画展を無料で鑑賞いただけます。

4 月 19 日(日)
5 月 17 日(日)



ピックアップ 所蔵品紹介
アリスティド・マイヨール
《とらわれのアクション》 1905 年制作
ブロンズ、高さ 220.0 × 幅 95.0 × 奥行 94.5 cm

市立美術館のエントランスに入るとすぐ、高さ 2 メートルを超える人物彫刻が出迎えてくれます。近づくにつれ倒されるほどの大きさで、力強く一步を踏み出しながら後ろを振り返るポーズもダイナミック。それにもかかわらず、この銅像のたくましい体つきからは、威圧感ではなくゆったり、どっしりとした安定感と生命力が伝わってきます。

作者はフランス人のアリスティド・マイヨール。今から百年ほど前に活躍した、近代ヨーロッパを代表する彫刻家です。彼は画家を志して美術学校で学んだ後、絨毯やタピスリー(絵画的な模様を織り込んだ壁掛け)の工房を営みましたが、細かな作業で視力を弱め、40 歳を過ぎてから彫刻をつくり始めました。

《とらわれのアクション》はマイヨールの初期の代表作で

す。長い獄中生活を送った社会主義者オーギュスト・ブランキを称える記念碑として制作されました。複数の試作品が残されており、当館の作品は、後ろ手に縛られた腕のある完成像に至る前の、最終試作です。マイヨールは、愛好したギリシャ彫刻についても「腕がない方が美しいことが多い」それは「すばらしい上半身、腹、腰回りといった部分が、腕がなくなっただけで見られるからだ」と語っています。量感あふれる簡潔な形を追究した、彼らしい言葉です。また、マイヨールはあらゆるテーマを女性像によって表しました。この記念碑のモデルも本当は男性ですが、力強い女性像のなかに、拘束から自由になろうとするブランキの姿が表現されています。